

## 公園緑地整備事業青少年公園再整備工事( もりのゾーン )

受賞機関 愛知県尾張建設事務所名古屋東部丘陵工事事務所

はじめに

愛知青少年公園は青少年の健全な育成を目的として1970年に開園し、幅広く県民に親しまれてきた。2005年3月より本公園を会場として日本国際博覧会「愛・地球博」が開催され、これを契機に新世紀にふさわしい都市公園として生まれ変わることになった。愛知県では博覧会に合わせて、日本庭園、林床花園、親林楽園の3つの区域からなる「もりのゾーン」を先行整備した。



公園全体平面図

事業の概要

- 事業期間：平成14年度～平成16年度
- 事業費：約46億円
- 日本庭園：敷地面積 約15ha
  - 主な建物 茶室(約324m<sup>2</sup>)
  - 景石 約6,000t
  - 植栽 約19,700本
  - 園路延長 約1.7km
- 林床花園：園路延長 約1.5km
- 親林楽園：主な建物 フィールドセンター
  - 園路延長 約1.1km



日本庭園 平面図

事業の特徴

### (1) 日本庭園

この日本庭園は、さまざまな水の様態を鑑賞する庭園で、大小の池々をつなぐ水系に表情豊かな8つの水の様態の情景が展開し、これらを順に道でつなぐ回遊式の庭園構成としている。庭園整備においては、周囲の豊かな風景と造形する庭園に境を設けず、

風景の一体化を図り広がりを持たせ、また、21世紀の庭園として現代素材を使った工法と従来の伝統工法との融合を行うとともに、ユニバーサルデザインにも配慮し、個性豊かな庭園とした。



茶室

導入の庭「渦」

### (2) 林床花園

小さな子供から高齢者、そして、車椅子の方々にも気軽に樹林地に入って自然を楽しんでいただけるよう、園路勾配を緩くするなどユニバーサルデザインを取り入れた。そのため、採用したデッキの手摺り・床版等には県内産檜の間伐材を利用した。デッキ以外の園路には木チップ系舗装を行い、園内で発生した間伐材をチップ化して再利用したボードを敷詰めた。また、ここに自生しているツツジ類などを花園のように増やすため間伐を実施し、林床が明るくなったことにより分布範囲、数が増大した。



園路デッキ

フィールドセンター

### (3) 親林楽園

園路は、林床花園と同様のコンセプトで整備したが、併わせてここでは、環境学習の場としての整備も行った。博覧会中はフィールドセンターを環境学習拠点として「森の自然学校」の催しが展開されている。

おわりに

今回整備した「もりのゾーン」は、豊かな自然を生かした魅力ある安らぎ空間を創出し、長く県民の財産として守り育て、子供から高齢者の方までの誰もが幅広く自然や日本の伝統文化とふれあう場を提供しながら、博覧会の理念と成果を継承していくものである。